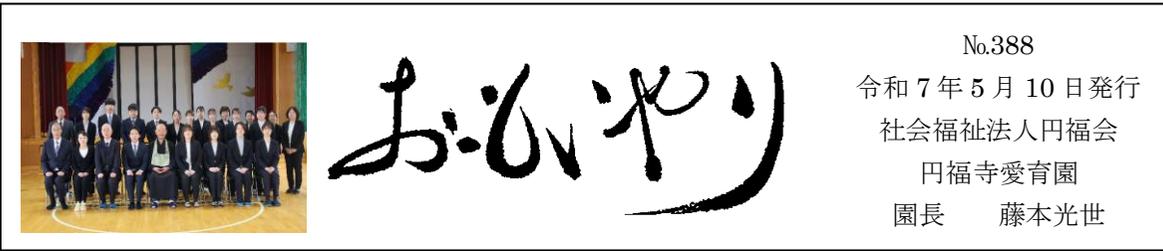


新年度がスタートしました。



Kちゃん

園長 藤本光世

Kちゃんは、4歳で愛育園に来ました。野菜を絶対食べませんよと引継がありました。お昼に行ってみると、レタスと真っ赤なミニトマトが残っています。

Kちゃん、これ美味しんだよ。美味しくな一れ、美味しくな一れ、おまじないするよ。口を開けて。おまじないをしたら口を開けたので、ポーンとトマトを放り込んだら食べてしまいました。これが私の初めて会った時の思い出です。

心が綺麗で優しく、とっても良い子です。今年は5年生になったので、愛育園は6年目になるでしょうか。朝食は私の隣で食べます。今は、ハグルマ家が好きなのか、俺ハグルマ家だ、俺ハグルマ家だとたくさん話してくれます。

良い子です。

爪噛み事件

ある職員（A先生としましょう）が入職して、Kちゃんの爪噛みが始まりました。あまり噛むので爪がなくなるほどです。Kちゃん、爪美味しい？と聞くと、笑顔で返事がありません。

そうこうするうちに、体育館の遊びで、3階の踊り場からサーチライトを落とす事件がありました。A先生が6人の小学生と一緒に遊んでいたのです。Kちゃんは遊びの輪に入らず、他の子の遊びを邪魔したり、悪ふざけをしたり、ステージに上って跳んで回ったりで、A先生が注意をしても聞かなかったのです。A先生が少し強く注意したら、3階への階段を上がって踊り場にいったサーチライトを下に落としたのでした。粉々に壊れました。大きな音がしたんだろうなあ。もし、下に誰かいれば大事故になるところでした。（愛育園の体育館は2階にあり、階段は体育館から倉庫に上がるための、鉄製です。）

これは子どもと一緒にいたA先生の指導が悪いと思って、呼んで話そうとしました。ところが、私がこの事件のこと話そうとすると、話題を爪噛みにずらすのです。何回も話を戻しても駄目。すぐにずらす。しまいには、Kちゃんの爪噛みに対する他の職員の対応を非難するのです。「あお

ぞらの職員はひどいです。暴言です。ドクターにもかけないで。園長、ホームに見に来なさい。」と私に命令します。爪噛みで呼んだのではないのに、体育館の指導の話題にならない。これには参ったなあ。仕方ないので、あなたの指導が悪くてKちゃんが愛育園のサーチライトを落して壊してしまったので、園に損害を与えたのは就業規則違反ですよ、そう話しました。ここまで昼食を摂らずに2時間です。

参ったなあ。そう話しても認めないし、納得しないので、どうするのだろうと思っていると、退職することになってしまいました。人が足りないけど仕方がないです。A先生は、ホーム長からホームの方針に力を合わせて養育できないことを聞いていました。他の職員とも力を合わせられない。仕方がないです。

人罪ですね。

退職して、しばらくすると、爪噛みが少なくなっています。そして、3ヶ月が過ぎて、今朝(4/23) Kちゃんの爪を見ると伸びているじゃないですか。きれいな爪が伸びていました。爪噛みがなくなったんだあと気づきました。先生に頼んで爪を切ってもらいました。いい爪になりました。

爪噛みの原因は、他の職員の関わり方にあると非難していたけど、それは自分にあったのでした。このことを指摘しても決して認めないとは思いますがね。KちゃんはA先生の指導が悪かったことを示してくれました。

ありがとう。

木魚バチ折り事件

朝のおまいりに行くと、H君が木魚のバチが折れちゃったと、私に言います。折れていました。理事長室に行って用意してあった予備を持ってきて渡しました。昔、子どもが荒れていた時はしょっちゅう折れていたんですけど、最近は子どもが落ち着いて、もう何年も折れなかったのです。バチは垢に汚れて、茶色になっていました。

だれが折ったかなあ。およそ予想が着きました。Kちゃんは、ものすごく強く木魚を叩くのです。その時の目つきが凄いです。こりゃいつか折れるぞ、あるいは木魚が割れるぞと思っていました。当番表を見るとやっぱりKちゃんでした。

折った人を詮索しても何もならないし、その子は子どもたちから非難の目で見られるだろうし、それやったことかと思身が狭くなるでしょう。それで誰がやったかのかな、などと詮索しないで、バチが折れちゃったから優しくたたいてねと、みんなにお願いしました。

すると何ということでしょう。おまいりが終わるとKちゃんがいきなり「それ、俺がやったんだ、俺がやったんだ、俺がやったんだ」と大きな声で何度も言うのです。みんなまだ談話室にいて、わかっちゃうのに。でも、みんな知っていたんです。だからKちゃん、いたたまれなくて言い出したのかな。あまり、嬉しそうに言うので、Kちゃんそれ謝るんだよと言ったら、「ごめんなさい」と小さな声で言うのでした。

次の木魚当番の時、Kちゃんは優しくたたいてくれました。分かったんですね。でも、優しくたたくと、ゆっくりになっちゃうんだ。でも、それでいいよ。顔つきも穏やかになったし、そのうち上手にたたけるようになるでしょう。

自転車

Kちゃんは、自転車に乗れません。自転車に乗れると良いねえという、俺歩く方が好きだし、歩くからいいもん、と強がります。

挑戦すればいいんだけど、自信がないんだなあ。



先日語志気の会（小宮山栄さまの会）の皆さんがおいでになりました。お話しと見学が終って、皿回しをして見せてくれました。やってみたい人、と子どもたちが挑戦しましたができません。私ですか。私は2016年のカンボジア支援旅行で、子どもたちに皿回しをやって見せようと、練習したのでできるのです。写真は、コーケー遺跡（カンボジア平原にある高さ30メートルのピラミッド 大王さまがこの上でお祈りをしたと言われていています。）で皿回しをする私です。コーケー遺跡で皿回しをした人は、世界中で私だけでしょうね。

Kちゃんも手を挙げたけど、やってみると言ったら、手を引いてしまいました。

24時間テレビのチャリティ寄付金で、全国の児童養護施設に寄贈があり、愛育園は自転車を頼みました。何と、すべて承認されて、新しい自転車が12台揃って、みんなで安全祈願法要をしました。

Kちゃんに、自転車練習しない？というとうんというので、どの自転車でやるの、と聞くと、一番小さな補助輪付きの子ども自転車を指さしました。

やろうとしているんだと、嬉しく思いました。

Kちゃんがんばれ。

Kちゃんがんばれ

自転車に乗れるようになるよ。そうすれば、みんなと一緒に千曲川の堤防のサイクリングロードを翔ることができるよ。

そう願いました。

Kちゃんの成長が楽しみです。

令和7年度 まごころホーム長方針

まごころホーム長 I・S

令和7年度のまごころホームは児童11名、職員6名でスタートしました。4月から小学校へ入学した子が2名います。自分の背中よりも大きなランドセルを背負い、毎日元気に登校しています。登校班の班長はまごころホームの小6Rさんです。登校の道に慣れない小学生を気にかけて歩いてくれる、そんな優しい姿が見られとても心が温まります。小学校生活に慣れるまで少し時間がかかるとは思いますが、担当の先生を中心にホーム職員で支え、安心して学校生活を送れるように支援していきたいと思っています。また今年度は高校3年生が2名います。進路や卒園を控え子どもたち自身もいよいよ卒園する年か、と実感し始めています。卒園を迎える前にまずは進路決定です。進路を決める時も、実現に向けて動き出すときもたくさん悩むと思います。そんな時も担当の先生とたくさん話をし、そしてホーム職員で支えていながら進めていきたいと思っています。

少し前置きが長くなってしまいましたが、今年度のまごころホームの目標は子どもたちが安心して過ごせるホームを目指していきます。そのためにはホーム職員と子どもたちが遊びや会話を通したくさんの時間を共有することが大切だと思っています。子どもにとって楽しい時間を職員と共有することで、それがきっかけとなり普段の会話が増え関係性を築いていける一つのきっかけになります。そんなスタートからホームの先生と子どもたちがお互い信頼し合えるような関係性になっていけるように頑張りたいと思います。

新年度がスタートし1か月ほどが経ちました。子どもたちも新しい学校、新しいクラスに少しずつ慣れてきたところですが、学校から帰ってくると、「今日は学校でどんなことをしたの?」「お友達とどんな遊びをしたの?」という会話がホームに溢れています。何気ない会話ですが、そんな雰囲気を大切にしていきたいと思っています!今年度もよろしくお願い致します。

令和7年度 あおぞらホーム方針

あおぞらホーム長 富沢正樹

今年のあおぞらホームは「外遊び、自然遊びを通して、思い切り体を使って遊ぼう」が養育の柱です。今年というよりも、令和2年度からはもうずっと「体を使った外遊び」をあおぞらホームの基本方針に置いています。

この「外遊び」、もともとは、暇になるとついつい子ども達の行動が悪い方向に進んでいってしまうので、なんとかそれを食い止めたくて始めた事でした。つまり、「暇をつぶす為の外遊び」だったので、今思うと、あまり前向きな発想ではなかったと思います。

しかし、子ども達と職員が思いきり体を使って遊んでいるうちに、段々この外遊びが、子ども達との信頼関係を構築してくれる役割を持ってきている事がわかりました。男の子たちはとっ

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

でも元気があるので、なにか腰を落ちつけて語るよりも、汗だくになって一緒になって遊んでくれる職員の方がよっぽど楽しい気持ちにさせてくれるし大好きなのです。そうなってくると、今度は肝心な話も素直に受け止めてくれるようになったりしたのです。

そして一層「外遊び」に力を入れていると、外遊びが「心の解放」と「集団からの学び」に繋がっている様子を感じ、さらに外遊びが非常に重要な事だと思えるようになりました。この部分はもう少し補足すると、ヘトヘトになるまで体を使って遊びまわると心がスッキリして日々の生活に前向きになって、物事(日常や学習など)への取り組み方や吸収力が変わってきます。また、スッキリしているという事は、逆に言うと悩みや不安がないという事でもあるので、迷いがなくなった状態という事になります。迷いがないと自信がついてきて、子ども自身の内から安心感が生まれます。安心感が生まれると人に優しくなれるし、自分の将来を悲観しなくなります。だからやっぱり外遊びが重要だと思いました。「集団」も同じで、「集団だから楽しい」「集団だから煩わしい」そういう両方の経験が安心感にもなり、逞しさにも我慢強さにもなり、やがて社会に出た時の粘り強さとなって自立を成功させてくれます。

そして昨年度、外遊びは新たな局面へ。外遊びを通して、それまで見えてこなかったその子の良さや得意が発見されて、それがその子にとって大きな自信と武器になる事が分かったのです。昨年度は、園長先生がスキーやスノーボードの道具を買い揃えてくれたり、スキー場に行く機会を許可してくださいました。みんなとっても喜んで、まさに心が解放されたいい表情になって、普段の生活にもプラスの影響が沢山出ました。そんな中で、こんなエピソードがありました。いつもA君に蔑まされているB君。ボードもA君は上手、B君は下手だったので「お前が来ると、遅くてリフトに乗る回数が減るからスキーについてくるな、留守番でもしてろ」とひどい事を言われ続けていました。しかし、スキー場に通う事8回目。地道に努力していたB君は急激に上手くなりました。焦ったA君は技を練習し始めていましたが、もうB君には到底及びません。A君は「B君すげー」と過去に自分の上手さを鼻にかけていた事を隠すかのようにB君をおだて始めました。B君が自分の力で立ち位置をひっくり返した瞬間でした。お見事でした。もしボードという外遊びをやらなければ、A君のB君に対する執拗な嫌がらせは酷くなり、B君は自分は何をやってもダメとマイナスな思いに支配されていた事でしょう。そして、そのマイナスな思いの中で将来や進路を考えていけないといけません。当然、選択肢の幅も狭ければ質も低くなってしまいます。

外遊びは、活動の内容によっては子どもの可能性を引き出し、かけがえのない自信をつけてあげることができるという事がわかりました。

単なる暇つぶしの為に力をいれた「外遊び」でしたが、今やおおぞらホームの養育方針に欠かせない柱となっています。

また実際に、ここ数年に卒園していった子たちが、社会に出て、今なお立派に自立し活躍して

(令和7年5月10日発行 月刊「円福」536号付録)

いる事が外遊びの重要性を裏付けてくれている気がしています。

こんな話を年度当初にホームの先生方と共有しました。令和7年度も子ども達の為に力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

令和7年度 調理主任方針

調理主任 M.M

今年度調理主任として一年間勤めさせていただきます。

到らない点も多いと思いますが、まずは子供達の事を一番に考えた食事作りをと考えています。今年度の目標は3項目あります。

1 温かい食事を提供する

- ・温かく提供するべき物はできる限り温かく出せる様、調理員一人一人が工夫し考えてり上げる。
- ・ぎりぎりの配膳をしても、なかなか熱々を食べさせてやれていませんが、冷めきった物と温かい物とは子供達のテンションも違うので、極力の努力が必然と思います。

2 衛生面の徹底

- ・賞味期限の確認
- ・食器類の定期的な漂白洗浄
- ・ウイルス性・細菌性の食中毒対策の徹底
 - ◎特に生肉・生魚の取り扱いには注意を払い、手袋使用を必須とする
 - ◎まな板の使用別を間違えないようにし、使用後の消毒をする
 - ◎お弁当当番の児童にも手袋使用をし、食品に触れる事がない様に促す

3 子供達の為の料理作り

- ・子供達の視点に立ち、ボリュームも考え満足感を与えられる様な献立を栄養士の先生に考えてもらう
- ・献立に添った料理を、手を抜くことなく「美味しく食べて欲しい！」の思いで、全力で作る
- ・温かく提供する物をどうしたら良いのかを、一人一人が工夫を凝らし最善の努力をする

以上3項目をあげさせて頂きましたが、調理員一人一人の心構えもしっかりし、子供達が本当に食事に来るのが楽しみと思える様な食事作りをしていきたいと思っております。

今年度一年よろしく願いいたします。

『施設見学会』

まごころホーム T. S

先日、就職希望者に向けた施設見学会が行われました。今回は男女1名ずつ参加してくださいました。働き方についてや、職員が日々どのように子どもと関わっているかを伝え、愛育園がど



ういったところなのかを知っていただくとても良い機会になったと思っています。説明会のあと、各ホームで昼食づくり（ホーム食）にそれぞれ参加していただきました。まごころホームではお好み焼きとフレンチトーストを作りました。見学者の方も子どもと一緒に食事をとっていただき、穏やかな雰囲気の中過ごしてもらえて良かったです。今後も見学の機会があれば、子どもたちの様子をたくさん見ていただけたらいいと思います。

施設見学会 職員からのメッセージ

あおぞらホーム S・K

本日は愛育園について、私の経験を交えながらお話したいと思います。

まずは入職前のことについてお話しします。私は大学の授業を通じて、児童養護施設の概要について詳しく学びました。そこで、親から十分な愛情を受けられなかった可哀想な子どもや、手に負えなくなった子どもたちが集団で生活しているというイメージを持ち、施設ではどのように子どもたちが養育されているのかに興味を抱いていました。そのため、インターンシップに参加する前までは、正直なところ、施設の子どもたちに対して少し「怖い」という印象を持っていました。ところが、実際に施設を訪れてみると、子どもたちはとても穏やかで、元気よく遊ぶ姿が印象的でした。その経験を通じて、児童養護施設の子どものためのイメージが大きく変わり、より深く関わりたいという気持ちが強くなりました。

次に、入職後のことについてお話しします。入職後、私は子どもたちとの関係を築くことの難しさを強く実感しました。施設には人見知りな子どもが多く、なかなか心を開いてくれず、指導に入ることも難しい状況が続きました。どうすれば良い関係を築けるのか悩んでいたときに、園長先生から「子どもとは、た



くさん遊ぶ中で関係ができていく」ということを教えていただきました。その言葉をきっかけに、私は「子どもと遊んであげる」という意識から、「子どもと一緒にあって自分も楽しみながら遊ぶ」という考え方に変わって接するようになりました。すると、子どもたちが少しずつ心を開いてくれるようになり、距離が縮まっていくのを感じました。一方で、関係を築くことに執着しすぎるあまり、指導すべき場面でもつい甘くなってしまうことが多くありました。そんな中で、先輩職員の子どもの向き合い方を間近で見て、関係づくりにはただ優しく接するだけでなく、時には厳しく指導することも必要だということ学びました。子どもたちの成長を本気で願うからこそ、あえて厳しく接することが信頼につながり、結果としてより良い関係を築けるのだということに気づくことができました。この経験を通して、私はそれまでの自分のやり方が、表面的な関係づくりにとどまっていたことを痛感しました。それ以来、子どもたちとは遊びや会話を通して楽しく関わりつつも、指導が必要な場面では気持ちを切り替え、しっかりと伝えることを大切にしています。

次に、印象に残っている行事についてお話しします。愛育園では1年を通して様々な行事がありますが、中でも私の印象に残っている行事は運動会です。この運動会では、職員も子どもたちも全員が本気になって競技に取り組み、各競技ごとに子どもたちと一緒に戦略を考え、それがうまくハマって勝てたときの喜びはとても大きなものでした。去年の運動会は、結果として私たちのチームは負けてしまいましたが、競技が終わった後の、子どもたちが本気で悔しがる姿を見て、「次こそは絶対に勝たせてあげたい」という気持ちが強く湧き上がりました。また、毎年恒例の「扇子演舞」という踊りにも挑戦しました。これは職員と子どもたちが一緒に取り組む出し物で、扇子を使った振り付けがとても難しく、私自身もなかなか覚えられずに苦戦しました。それでも、子どもたちと毎日練習を重ね、少しずつ完成に近づけていきました。本番ではみんなが堂々と踊りきることができ、大きな拍手をいただいたときの達成感はとても大きなものでした。運動会は、私にとって、子どもたちと一緒に成長を実感できる貴重な機会となりました。

最後に、本日見学に来てくださっている皆様は、児童養護施設の仕事に興味を持ってくださっていることと思います。私自身、児童養護施設の仕事はとても難しく、子どもたちとの関わりや、自分自身と向き合う中で悩むことも多くあります。ですが、愛育園では先輩職員の関わり方を間近で学ぶことができ、困ったときにはすぐに相談できる、温かくて開かれた環境があります。そうした安心感があるからこそ、子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合うことができるのだと感じています。この仕事には大変なこともあります、それ以上に大きなやりがいがあります。ぜひ、愛育園で私たちと一緒に頑張りながら、子どもたちの成長を見守っていきましょう。

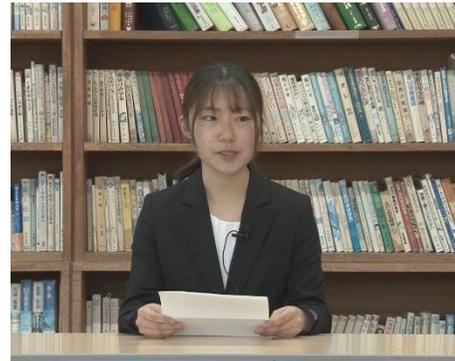
施設見学会 職員からのメッセージ

まごころホーム T. M

本日は見学会にご参加くださりありがとうございます。職員のT.Mと申します。

私が円福寺愛育園に入職してから2年が経ちました。入職してからの経験を、今回はお話をさせていただきます。

私は、福祉系の大学に4年間通っていました。大学3年生の実習で、児童養護施設に行かせてもらうことがありました。そこで初めて児童養護施設というのを知り、実際に子どもと関わり、一緒に遊んだり、勉強を教えたりしました。また、円福寺愛育園のインターンシップに参加し、子どもたちと関わる機会もありました。児童養護施設のイメージとして一緒に生活をしながら子どもたちのサポートをする、そんな風に思っていました。



愛育園に入職して、実際毎日子どもたちと関わっていくと様々な壁にぶつかることがありました。まず、苦労したのは子どもたちとの関係性づくりです。最初は、子どもたちの輪にうまく入っていかず、なかなか会話も生まれなかったことがありました。児童養護施設は、様々な年齢の子たちがいます。特に中高生の子たちと関係性を作っていくのが難しかったです。日々の生活を一緒に過ごしたり、行事によって少しずつですが心を開いてくれた時とても喜びを感じました。中高生とも徐々に自然に会話が生まれるようになりました。また、子どもたち一人一人は性格も特性も違います。時には、こちらの話を全く聞いてくれなかったり、試し行動としてわざと嫌なことをしてしまう子もいました。最初は子どもに振り回されてしまうことも多く、とても困惑しました。ただ、自分がうまく対応できなかった時は、必ず先輩職員が間に入ってくれ、アドバイスをくれました。子どもがどうしてそんな行動をしてしまうのか、よく観察して、対応を変えていくこと、子どもを変える前にまず、自分を変えてみようというアドバイスをいただきました。そこから試行錯誤しながら自分なりの方法で子どもに向き合ってみました。常に考えながら行動していました。子どもたちへの対応の方針は、ホーム会議で話し合い、細かく決めていくので、その大枠の中で、自分の方法で子どもと関わることを続けました。すると、少しずつですが、話が入りやすくなったり、変化が見えるようになりました。子どもの方から甘えてくれた瞬間はとても嬉しかったです。色々考え、試すこと、継続していくことの大切さを学ぶことができました。

ここで、愛育園で働いている中でやりがいを感じる瞬間についてお話したいと思います。私が一番やりがいを感じるのは、子どもの変化を見た時です。毎日子どもたちと過ごしているとさまざまな変化を感じることができます。例えば、年長の女の子Aちゃんはとても怖がり、公園に行っても大きなすべり台をすべることができませんでした。一緒にやってみようと声をかけても「怖いからやらない」といつも違う遊びをしていました。ですが、ある時、いつものようにやってみようよと声をかけると、すこしだけならと挑戦してくれました。するとすぐに一人ですべ

れるようになり、その日は何度も何度もそのすべり台で遊んでいました。それ以来Aちゃんはその公園がお気に入りになり、「あの公園にいきたい!」と言ってくれるようになりました。些細な事ですがこのような姿を見ることができるとすごく嬉しい気持ちになります。日常の中や行事の中で、小さな変化や成長を見れた時、この仕事をやっていてよかったと感じます。

また、愛育園には様々な行事があります。私が特に印象に残っている行事は、愛育園祭です。愛育園祭では毎年、まごころホームでは中高生と職員で書道のパフォーマンスをしています。本番の2週間ほど前から、毎日夜にみんなで集まって練習をしました。最初は文字を書いてみることから始め、音楽にのせていったりと徐々に演出を入れていきました。うまくいかないことがあった時、職員と子どもたちとで話し合い、試行錯誤を繰り返しました。どうやったらうまくいくだろう、とみんなで一緒に考える時間はとても楽しく、一体感を感じられました。職員も子どもも同じ立場で一人ひとりが役割を持ってパフォーマンスに臨んでいきました。本番は練習の成果を出すことができ、とても良いパフォーマンスをすることができました。終わった後の達成感でいっぱい表情は今でも鮮明に思い出すことができます。子ども達と一緒にステージを作り上げられたことは自分の自信にもつながる経験になりました。

最後に愛育園で毎日子どもと関わっていくことは大変なこともあります。様々な行事や日常を共に過ごすことで、子どもたちと一緒に成長することができます。行事を通して子どもの新しい表情を見つけられたとき、関係性が変わってきたとき、とても嬉しい気持ちになります。さまざまな経験ができる場所だと思います。ぜひ愛育園と一緒に働きましょう。

高校に入学して 児童感想

4月から、自分は高校に入学し、少し学校生活になれてきました。その上で自分は、高校に入学してからの、まずは一年間、頑張っていきたいことが二つあります。

一つ目は勉強です。自分は元々、勉強が得意ではありません。また、高校に入ってみると中学校とは違い勉強も更に難しくなるということから自分は、勉強に力を入れて頑張りたいと思います。ただ頑張りたいではなく、常に目標をもってやりたいと思います。理由は、高校は義務教育ではありません。なので例えばテストで合格点に達していないと赤点になってしまいます。そのため、日頃から勉強をやり、努力し、自分が納得いくような成績をとりたいです。こうした目標をもち工夫しながら勉強を頑張っていきたいと思いません。



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

二つ目は、高校生活における態度やマナー、礼儀です。自分が今通っている高校はとても校則が厳しく、我慢しなければならないことが多いですが、自分はその中でも特に守っていきたいことがあります。それは、授業態度です。中学を振り返ると、授業中寝てしまったり、話を聞いていない時があったので、高校に入ってからには特に授業態度をよくしていきたいです。そのほかでも学校の決まりを守り、規則正しい学校生活を送っていきたいです。こういった二つのことを目標にし、苦しいこともあると思いますが、それを全力でのりきり、楽しい学校生活を送れるよう、日々、頑張っていきたいです。

(高1 F. K)

中学校に入学して 児童感想

ぼくは今、篠ノ井東中学校で頑張っています。ぼくが今、頑張っている教科は、全教科です。そしてもう一つ頑張っていることは友達づくりです。

(中1 Y. K)

※担当職員 Y.S より

今年度新たに中学生になった K 君は、小学校6年生の時に愛育園に来ました。慣れない中での生活と、学校でも友達ができるか心配でしたが本人の持ち前の明るさですぐに友達もできてしっかりと6年生の生活をして卒業式を迎えられて無事に中学校へ入学することができたことは何よりも本人の頑張りだと思います。中学校生活ではまだまだ慣れないことなどもたくさんあると思いますが日々本人なりに頑張っている様子がうかがえます、まだまだ幼い部分もあり、友達や先生との関わり方など少しずつ覚えて行って欲しく、引き続き支援していきたいと思っています。



小学校に入学して 児童感想

『いちねんせいになって』

わたしは、いちねんせいになってあたらしいおともだちができました。やすみじかに、おにごっこをしてあそんでいます。たのしいです。このまえ、さんかんびがありました。えんのせんせいがきました。きんちょうしました。だけどちゃんとできました。ひらがなをやりました。これからしょうがっこうでうんどうかいがあります。れんしゅういっぱいがんばります。

(小1 S. H)

(令和7年5月10日発行 月刊「円福」536号付録)

『しょうがっこうににゅうがくして』

4がつ4つかに、にゅうがくしきをやりました。わたしは1くみです。あたらしいおともだちがいっぱいいました。きんちょうしました。たんになのせんせいはやさしいです。わたしは、がっこうでおべんきょうをがんばっています。つぎは、かんじをがんばります。がっこうで、たのしいことはそとあそびです。これからもたくさんあそびたいです。

(小1 S.A)



愛育園の職員になって

あおぞらホーム S・K

桜も散り、新緑の碧さが目立つようになる5月を迎え、愛育園の職員となり1カ月経とうとしている時の早さに日々の充実を感じています。

愛育園での日々は子どもたちの様子を最も近くで感じることが出来、様々な感情を私にもたらしてくれます。現在、主に関わっている小学生5名中学生1名ですが、関わる際には非常に楽しいと感じる気持ちの反面、本当にこの関わり方で子どもはよく思ってくれているのかと日々自答しています。その際にはT先生を始めとしたあおぞらホームの職員の方々は私の疑問に思ったことや関わり方で悩んでいることに対して、私の意思を最大限尊重した意見を下さります。

児童養護施設での業務の最大命題である「こどもとの信頼関係の構築」についてはどのようなものが信頼関係であるかということを経験、学び始めているところです。最近の様子では子どもの方から私に対して遊びを誘ってくれたり、話しかけてきて学校での様子を話したりしてくれます。このようなものを積み重ねていき、自分なりの信頼関係を構築していきたいと考えています。

今後も園での生活に対して積極的に取り組み、園での方針を理解し、職員の一員になっていけるように励みたいと思います。おもいやりをお読みいただいている皆さん、また地域の方々その他関係者様にはご迷惑をお掛け致しますが、見守っていただけると幸いです。今後もよろしくお願い致します。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム M・N

新年度が始まり早一カ月経ちました。あおぞらホームでは中学生と高校生になった子がいます。四月は緊張した表情で過ごしていましたが、一カ月経つと表情が徐々に和らいできたように感じます。

あおぞらホームは休みの日は外へ出かけることが多く、だんだんと暖かくなってきたので公園や釣りへ行ったりとこの季節だからこそ楽しめる過ごし方をしています。小学生は休みの日になるとカナヘビを捕まえに出かけ、一人一匹以上飼っているくらいお世話を夢中です。カナヘビの脱走にはいつもびっくりしますが…。新学期が始まり新しい環境で頑張っている子どもたちですが、休日は元気ながらもリラックスした表情で過ごしている姿を見ると安心します。

これから本格的に学校でも園でも行事が始まります。穏やかな日常を大切に、子どもたちが日々伸び伸びと過ごせるようにサポートしていきたいと思います。五月には善光寺ウォーキングがあり今年度最初の行事です。子どもたちとどんな話ができるか、どんなウォーキングになるか楽しみです。

まごころホームだより

まごころホーム N・R

満開だった桜も散り、暖かく過ごしやすい日が続いています。新学期が始まり、一カ月が経ちますが、まごころホームの子どもたちは毎日元気に登校しています。

まごころホームでは、新たに二人が小学校に入学しました。勉強や登下校など慣れないことばかりで大変なこともあります。毎日帰ってくると学校の様子を話してくれたり、「友達が出来たよ！」と嬉しそうに報告してくれたりする姿も増え、新しい環境でも頑張っているなど感じています。他にも、進級してクラス替えをした子や最高学年になった子もいるため、子どもに寄り添いサポートしていけたらと思います。

5月には大きな行事があり、初めて参加する子もいるため、体調を整えて全員が楽しめるようにしていきたいです。

調理室だより

調理員 K・N

いつも新年度は新鮮です。

子ども達は学年が上がっただけでなく、しっかりして頼もしく感じます。これからの成長が楽しみです。そして、4月なのに早くも真夏のような季節外れの暑さ、そんな中子ども達の大切なひ

と時を気持ちよく過ごせるよう清潔な食堂で心を込めておいしいご飯を作っていきたいと思います。

★今月の特別メニュー★

10日 入学・進級お祝いメニュー

赤飯、串カツ、なばなのおひたし、コーンバター、牛乳寒天

★今月の誕生日メニュー★

2日 Uさん

カレーチーズドリア、ハッシュドポテト、さけチーサラダ、ガトーショコラ

23日 Sくん

チーズカレーうどん、フライドポテト、マカロニサラダ、スーパーサイダーゼリー

27日 Hさん

醤油ラーメン、フライドポテト、春雨サラダ、チョコパフェ

28日 Aさん

塩ラーメン、鶏の唐揚げ、さけチーサラダ、いちごパフェ



